

深浦会東京だより

第26号

深浦会東京 事務局
〒154-0011 東京都
世田谷区上馬4-23-7
トボス・M. 駒沢 102
TEL 03-3418-0914
FAX 03-3422-0483

第16回定期総会・交流会

ふるさとの味 ふるさとの心がふれあう 深浦会

深浦会東京会長 小野 秋夫



今年も待ちに待っていた「深浦会」の 때가やってきました。皆様にはお元気で過ごして下さるか。「今年もまた」。「今年こそは」。

「ふかさ」とをまるごと「ふかうらのいいもの」を合言葉に、お誘い合わせのうえ、たくさんご参加を心からお待ちしております。今年6月22日(日)夕陽海岸深浦場所が日

開催ということで、ふるさとの海・山の幸、産地直送の安全な逸品が味わえます。昨今の中国産冷凍食品、干物事件以来、国産品、郷土産の食材のよさ、安全性が見直されてきています。

今ふるさとも必死で、がんばっています。懐かしい味、安全でおいしい「ふかうらのいいもの」を友人・知人とおして全国的に広めて、地域経済活性化支援のために、今できることから始めてみませんか。

●「ふかうらのいいもの」が、夕陽と白神の恵み、深浦特産品の紹介がなされています。深浦町商工会が県内外から訪れる観光客に郷土自慢の逸品をPRしようと認定特産品を紹介したものです。

●「ふかうらのいいもの」が、夕陽と白神の恵み、深浦特産品の紹介がなされています。深浦町商工会が県内外から訪れる観光客に郷土自慢の逸品をPRしようと認定特産品を紹介したものです。

●「ふかうらのいいもの」が、夕陽と白神の恵み、深浦特産品の紹介がなされています。深浦町商工会が県内外から訪れる観光客に郷土自慢の逸品をPRしようと認定特産品を紹介したものです。

●「ふかうらのいいもの」が、夕陽と白神の恵み、深浦特産品の紹介がなされています。深浦町商工会が県内外から訪れる観光客に郷土自慢の逸品をPRしようと認定特産品を紹介したものです。

会員各位

お知らせ

「深浦会東京」第16回定期総会・交流会の開催について

深浦会東京 会長 小野 秋夫

拝啓

春暖の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、当会の運営につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第16回定期総会・交流会を下記のとおり開催いたします。深浦町から町長をはじめとして関係者の方々が参加されますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日時 平成20年6月22日(日) 午後1時より
2. 場所 きゅりあん(品川区総合区民会館) 東京都品川区東大井5-18-1 ☎03(5479)4100
3. 交通 JR京浜東北線大井町駅下車南口徒歩1分、東急大井町駅下車徒歩5分
4. 会費 1人7,000円(年会費2,000円を含む) 同伴家族1名増すごとに5,000円加算。但し高校生以下は無料。
5. 申込方法 同封の「はがき」に必要事項を記入し、6月8日までにご返送下さい。

※当日、ご出席できない方は年会費(2,000円)を別紙郵便振替払込書にてお振り込み下さい(平成19年度振込実績230名余)。なお、振込手数料は、当会にて負担いたします。

※「広報ふかうら」の購読をご希望される方は、別紙郵便振替払込書にて購読料(2,000円/年)をお振り込み下さい。振込手数料は当会にて負担いたします。

※会場でのスナップ写真の撮影は致しませんので、写真を撮られる方は、カメラ等をご持参下さい。

以上



大福引大会



交流会風景(昨年の交流会)

さんごの更なるご支援をお願いしたいと思います。●ふるさと深浦町の限らない発展を願って!

全国的な地域経済の低迷が進む中で、我が深浦町も大変厳しい財政状況にありま。

また交流会で元気に「アオーネ」

深浦会東京の定期総会に寄せて

深浦町長 西崎 哲



ふるさとの草木の葉も色を濃くし、海からは心地よい風が吹く季節となりました。「深浦会東京」の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりふるさと深浦町へのご支援・ご協力に感謝を申し上げます。

さて、我が国の経済は、新興国の経済成長に伴い順調な輸出に牽引され、息の長い景気拡大が続いてきましたが、米国の信用力の低い個人向け住宅融資であるサブプライムローン問題による国際金融市場の混乱が日本経済にも暗い影を落としております。

さて、我が国の経済は、新興国の経済成長に伴い順調な輸出に牽引され、息の長い景気拡大が続いてきましたが、米国の信用力の低い個人向け住宅融資であるサブプライムローン問題による国際金融市場の混乱が日本経済にも暗い影を落としております。

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」の設立以来、この会はふるさとの想いを語り合い、出身者相互の交流・親睦・情報交換の場として重要な役割をはたしながら発展

し、安全な道路網の整備と町の地域経済発展に大きく寄与することとなりました。昨年着工した「いわさき小学校建設事業」につきましては、新校舎が今年3月末完成し新学期からは新しい学校で勉強しております。さらに、室内体育館、グラウンド及び遊具等については、早急に着手し、年内には完成したいと考えているところであります。

また、児童数の減少により複式学級を余儀なくされていた、風合瀬小学校と明道小学校につきましては、4月1日から深浦小学校に統合となり、新たな環境で学校生活をスタートしております。さて、当町の主要産業であります漁業は、豊漁が数年続いていたハタハタ漁については漁獲量が減少したものの、ヤリイカ漁については今年の1月から3月の管内漁協水揚げ実績が前年比で38パーセントと好調に推移しており、今後も豊漁に期待するところであります。漁協合併につきましても、財政基盤の強化、地域漁業の活性化向

をしてもらう」ではななく、「ふるさと」へ何ができるかをそれぞれが「自問自答」し、「恩返し」として総会・交流会にご参加の皆様方の温かいご理解と力強いご支援をより「深浦会東京」も、そのような考え方を基本に

況下にあります。少子化に伴う学校教育の問題、環境問題、高齢化に伴う社会保障費増加之課題などで、徹底した事業の見直しと歳出削減が求められています。これからは「町に何か

計を圧迫する中、長寿(後期高齢者)医療制度の導入による負担増もあり、身の回りの生活においても厳しい状況が続くものと思われま。

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

「深浦会東京」はふるさとの想いを語り、交流・親睦・情報交換の場としてさらに発展

深浦の文化遺産 ⑤

深浦町文化財審議委員 森山嘉蔵



一、深浦の文化財

11. 円覚寺の鯛口と龍灯杉

①鯛口 県有形文化財(昭和三十年一月七日指定)

神社・仏閣の入り口・軒下の架に吊るされている金鼓で、布や麻で編んだ網を振り動かして打ち鳴らすもので金属鈴と鯛口がある。円覚寺の鯛口の材質は銅で、直径十九センチ、厚さ六センチ、厚さ三千三百グラムである。裏面には「至徳二年六月二十四日」と刻まれている。至徳二年(一三八五)は南北朝の時代で、中央では後醍醐天皇、足利尊氏、楠木正成が活躍し、津軽では十三湊安藤氏が北の海を支配していた頃である。

②龍灯杉 町天然記念物(平成五年十一月二十五日指定)

藩政期から明治初期にかけて舟才船(北前船)による日本海交易が隆盛を極めていたが、北の海は、時として俄かに荒天となり、狂風怒涛となつて針路を定め難くなるのが、屈強な船乗りも、遂には日頃信仰する鯛口観音を念じて風雨巨波と闘う中で、暗い波間を縫って一条の閃光を視るのだった。その光を頼りに舵を切り船を進めると、「おうー」白神の山々が現れ、やがて銚子の淵と言われた深浦の入り江に辿り着くのだ。光茫は円覚寺境内の神杉が発したのだ。疲れた身体を休める間も惜しく、船乗りたちは鯛口観音の龍灯杉に駆け寄り感謝報恩の思いを捧げるのであった。

12. 鴨家・嶋家由緒書 町有形文化財

鴨家(平成五年十二月二十四日指定) 嶋家(平成六年一月二十五日指定)

大戸瀬地区関村の嶋さんと北金ヶ沢の嶋さんに保存されている文書である。戦国時代末期、糠部南部氏からの独立を秘策する大浦為信は、かねてから好話を通じていた山形の領主最上義光から槍・弓・鉄砲などの武器を送ってもらう事になったが、本家からの独立を図る合戦に使う武器の海上輸送をするという

13. モクゲンジの林 町天然記念物(昭和五十一年十二月二十四日指定)

岩崎地区木蓮寺に保護されているモクゲンジは、ムクロジ科の落葉喬木で中国が原産地とされている。高さは十メートルほどで七月末から八月の真夏に黄色の花をつける。種子は球形の黒色で、往古の人々はこれを数珠造りに用いたと言われている。また花を眼薬や黄色染料にしたとも言われている。センダンバノボダイジュ(梅檀葉の菩提樹)と言つて菩提樹の一種である。江戸時代の紀行家菅江真澄が寛政期(八年、一七九六か?)に此の

危険な仕事を引き受ける者が無かった。ところが、同じ羽州の鴨の十兵衛と嶋の与兵衛の二人は敢然とこの任に当たり、はるばる羽州の湊から数多の武器を船積みして鯉ヶ沢に陸揚げした。その後も度々この種の使いを勤め、為信の大家である津軽統一のために尽くした。為信は二人の大功に報いるべく津軽に呼び寄せた。津軽の住人となった二人は西浜に嶋村と鴨村を開き、藩主が信から漁師頭に任ぜられ、代々御目見得格の身分格式を許されたのであった。このような経緯が記録されている両家の由緒書である。

14. カラスサンショウの林 町天然記念物(昭和五十一年十一月二十四日指定)

ミカン科の落葉喬木で暖地に自生している。幹高六メートルほど、棘が多く特有の香りがある。葉は羽状複葉でサンショウよりも大きく、下面は帯白、夏は緑黄色の単性花を開く。果実は球状で辛みがある。葉を煎じてマラリア、風邪に用いる。この樹は暖地系で青森県が分布の北限となっている。学術上貴重な存在で、名前のようにサンショウよりも大きな実が鳥が好んで食べる。 ※注 ただ、近年になってこの樹林は寿命が尽きたように自然に枯れている。

連載II 健康 ⑤ スローピングで「活性深浦！」

国際スローピング協会副代表/看護師 奈良岡 絢子

春です！元気に楽しく「生涯健康への道」を歩き続けていらしゃいますか。スローピングの奈良岡です。お蔭様でスローピングも誕生11年を迎えました。子供たちに迷惑をかけない親でありたいとの一念で、毎日コツコツと「坂道や階段を前向きや後向きで、上ったり下ったりを繰り返す」を続けて20分。光陰矢の如しです。さて、今回は私の活動の一つ、東京にある介護施設有料老人ホームの様子をご紹介します。



金が必要ならば入居たくても入れない高嶺の花である。さぞかし天国かと思いきや、入居している85歳の女性は「高級娯楽捨て山に入れられてしまったの」と息子さん夫婦を恨んで涙で袖を濡らされた。これだけの資金投入にはご家族としてもどれほど大変なことか。それなのに当のご本人には理解してもらえない。施設内を見渡すと、入居の方々の心からの楽しそうな笑顔が少なく、入居できない人から見たら、とてつもなく羨ましいことであるはずなのに、お月々の支払いも多い。お

としてみても、知人の男性から電話をもらいました。「奈良岡さん、助けてください。入所5ヶ月くらいでみんなダメになっちゃいますよ」と悲痛な声。つまり、杖歩行で入居された方でもあつという間に歩けなくなってしまうので、ヘルパーが腰を痛めて次から次へと辞めていってしまふのだという。それは大変、なんとか助けてあげたい！早速週一回だけ機能訓練看護師として勤務することに。有料老人ホームとは、一時金を沢山払って、月々の支払いも多い。お

金では解決できないものがある。是非力になりたい。施設長より家族会の折に紹介された。初めて耳にされるスローピングの説明に、ご家族の期待にやぶる熱い視線を一言に受けた。階段はあるが私のいない時に勝手に上つて怪我でもされたら大変だから使えない。みんなの手を借りて牛乳パックで高さ12cm程の1段の箱を数個作った。9月から健康作りに向けて本格スタートを切った。半年が過ぎた。自ら進んで愉しんでやる人、寝ていたいのに、と渋々やるとでは筋力の付き方に大きく差があることがわかった。脳の働きが、うさせるのであろう。杖をついてふらふら歩いていた90歳の男性はいつの間にか杖を忘れて歩かれています。84歳の男性は片時も離せなかった歩行器を放り出して、左右の区別がつかなくなった人がつくようになったり、自力で便が出ず、毎日レシ

開催日	イベント名等
平成20年 4月25日(金)	白神春もみじ 白神十二湖山開き (観光課) (登山客や森林浴に訪れる観光客の災害、交通事故等の撲滅を願い、安全祈願する)
4月29日(火) ~ 5月18日(日)	春の白神山写真展 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (写真展を通して、新緑の白神山の魅力をご覧ください)
5月17日(土)	春の十二湖33湖めぐり (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (新緑の十二湖を楽しみながら、33の湖沼を巡ります)
6月8日(日)	野鳥観察会 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (十二湖の野鳥を観察します)
7月5日(土)	太夫峰登山 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (白神ラインを通り、太夫峰に登ります)
7月18日(金)	深浦町海開き安全祈願祭 (岡崎海岸) (観光課) (町内海水浴シーズンの幕開けを広くPRする)
8月5日(火) ~ 24日(日)	白神山野鳥写真展 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (白神山の野鳥の魅力をご覧ください)
8月14日(木) ~ 15日(金)	白神山世界自然遺産登録15年記念イベント 黄金の日本海「深浦海まつり」(夕陽公園) (深浦海まつり実行委員会) (「白神山」が世界自然遺産登録されて15年となることを記念し、白神山写真展と地球環境をテーマとしたイベントも従来の内容に取り入れて開催されます。)
9月下旬	崩山登山 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (十二湖を通り、崩山に登ります。)
9月28日(日)	夕陽海岸マラソン大会 (INウェスパ椿山) (津軽深浦夕陽海岸マラソン大会実行委員会) (町のリゾート施設であるウェスパ椿山にて健康増進のためマラソン大会を実施する。)
10月7日(火) ~ 19日(日)	秋の白神山写真展 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (写真展を通して、紅葉の白神山の魅力をご覧ください。)
10月中旬 ~ 10月下旬	十二湖紅葉ウィーク (十二湖) (観光課) (津軽国定公園十二湖の紅葉を町内外にPRし誘客促進と町の活性化を図る) ※十二湖33湖めぐり等開催
10月18日(土) 25日(土)	秋の十二湖33湖めぐり (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (紅葉の十二湖を楽しみながら、33の湖沼を巡ります)
10月25日(土) ~ 26日(日)	津軽深浦チャンチャンまつり (夕陽公園) (観光協会主催) (一次産品の消費拡大等による地域の活性化を目指す)
11月	白神・十二湖観光ガイド資質向上講習会 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (ガイドの資質向上を図るために「普通救命講習会等」を実施。)
11月	白神・十二湖観光ガイド資質向上研修会 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (ガイドの資質向上を図るために、講師を迎えての研修会を実施。)
12月	白神・十二湖観光ガイド意見交換会 (十二湖エコ・ミュージアムセンター事業) (深浦町在住の観光ガイドとの意見交換を行う。)
平成21年2月 (毎週土曜日)	グルメinふかうら (深浦町内) (観光協会主催) (一年で最も豊富な魚種が水揚げされる時期に町内各宿泊施設において冬季におけるツアー誘客を図る)

訃報

兼平幸四郎氏(かねひら こうしろう) 田野沢出身

当会の元幹事
病氣療養中のところ去る
2月17日死去。自宅は目黒区目黒3-9-14

山下昇氏(やました のぼる) 田野沢出身
当会の地区世話人
病氣療養中のところ去る
3月20日死去。自宅は江東区東砂2-13-21-314

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- 事務局からです**
- 1. 年会費の納入のお願い** 年会費を未納の方は大変申し訳ございませんが、平成20年度分の年会費2,000円のお振込みをお願い致します。昨年度は227名余の方からお振込みを頂いております。振込手数料はいりません(当会負担)。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。
 - 2. 「広報ふかうら」購読申し込みご希望の方へ** 深浦町で毎月発行しております。ふるさとの情報がいっぱい会員には大好評です。購読希望の方は年間購読料2,000円をお振込み下さい。振込手数料はいりません(当会負担)。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。
 - 3. 投稿のお願い** 「深浦会東京だより」への投稿を募集しております。内容は一切問いません。字数…600字位(写真貼付も)。事務局迄ご郵送下さい。投稿者には、深浦にちなんだ記念品を贈呈致します。
 - 4. 住所変更、姓名が変わった方は忘れずに事務局迄連絡して下さい。**
 - 5. 名簿提出のお願い** 同期会、同窓会等の名簿を事務局迄お願いします。
 - 6. 会報への「広告」を募集しています。** ご希望の方は事務局迄ご連絡下さい。(1口1万円より)